

■平成29年度 第4回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成29年度 第4回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成30年2月6日(火) 9時30分から17時10分

[開催場所] 大和市役所 本庁舎 5階 委員会室

[出席委員] 10名(欠席:2名)

[出席]: 饗庭 伸/杉崎 和久/河村 奨/菅 孝能/江村 郁子/仲村 邦弘/星野 澄佳/
山田 俊明/須賀 良二/宇津木 朋子

[欠席]: 黒石 いずみ/松本 久美

[事務局] 8名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名、大和駅周辺市街地
整備支援担当1名、街づくり総務課 街づくり調査担当2名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会

2. 議題

(1) 大和駅東側第4地区第一種市街地再開発事業の都市再生整備計画の事後評価について
(意見反映)

(2) 平成29年度 第20回 大和市街づくり賞 選考

3. 報告

(1) 平成29年度 第20回 大和市街づくり賞 表彰式について

4. その他

5. 閉会

II. 内容

1. 開会

2. 議題

(1) 大和駅東側第4地区第1種市街地再開事業の都市再生整備計画の事後評価について
(意見反映)

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼ (まず、前回の第3回会議での原案説明の際に質問があった事項について、市より回答した。)

▼ (1) プロムナードの歩行者数について、従前・従後の比較としてより適切と考えられる同時期の物を探したが、記録として残っていなかった。

(2) 図書の利用者数は、22,000人の増加である。

(3) 図書館利用者の属性について、市内は約4割増であった。特筆すべきは市外で、2.3倍増であった。

(4) 図書貸出冊数(平成29年4月～12月末)は、全体で53万冊であった。このうち、市内の利用者への貸出は約75%にあたる40万冊で、市外は概ね4分の1くらいの12万冊程度であった。

(5) 商店街の回遊性について、商業部局に確認したところ、確かに人通りが増えたという声があり、商業者からはシリウスができたことに対して、好意的な声があった。

▼(事後評価に関して、いただいた意見および本市の考察について説明を行った。)

▼市では、平成29年12月1日から平成30年1月5日まで市ホームページにて公表、広報やまと12月1日号にて原案公表を周知、平成29年12月1日から平成30年1月5日まで市役所窓口および公共施設にて縦覧を行った。同じ期間で意見を受け付けたが、お寄せいただいた意見はなかった。

▼本日の会議では、特に、事後評価シートの「方法」というところよりも「事後評価手続き等にかかる審議」のうち、「その他」の部分について、委員の皆様よりご意見を伺いたい。

これから、シリウス周辺の街をどのようにしていきたいのか、皆様のご意見を伺いたい。

○A3の資料に沿って進めていく。この「審議事項」(例えば、方法書、実施過程の評価等)のどれにあたるのかをご自身で整理したうえで発言をお願いしたい。

《質疑応答の内容は、次の通り》

【「方法書」について】

○「住民の意見なし」をどう受け止めているか。関心がないのか、方法の問題なのか、何か他に問題があったのか。

▼おそらく、市民の多くは再開発事業でできたシリウスというハードについてはかなり関心が高いが、そのバックボーンとなる計画論については、まだまだ意識が薄いのではないかと考えている。これは、我々の努力不足であるかと思うが、より関心を持っていただくためにはどうしたらいいのかという点は、大きな課題であると捉えている。

【「実施過程の評価」について】

○事後評価シートの(2)実施過程の評価のうち、添付様式3-②住民参加プロセス実施状況の「文化創造拠点に関する住民説明会」の中で、「予定はなかったが実施した」とあるが、なぜ予定がなかったのか、また、なぜ実施したのか。

▼予定はなかったというのは、当初の計画書である都市再生整備計画書には記載時に予定がなかったという意味である。計画策定後、シリウスができる前に文化スポーツ部が独自にキャラバンを組んで説明会を行ったので、そのことについて住民参加プロセスとして説明会を行った。

【「効果発現要因の整理」、「その他」について】

○事後評価の表現として頻出する「交流」・「回遊性」の定義は何か。どういう「交流」、どういう「回遊性」として捉えているのか。

▼「交流」とは、人々が触れ合うことで仲良くなるようなイメージである。「交流」という文字が沢山出てくるのは、都市再生整備計画が今回、補助金の出し方がこれまでとは異なり、それぞれの街についてテーマを設け、そのテーマに沿った事業を進めることで補助を受けられる仕組みとなった。その

ことに伴い、シリウス整備の一つの大きな目標に、「居場所作り」を一つのテーマとし、利用者がシリウスの中で交流し、これが街全体に広がっていけばよいと考えた。ここでいう「交流」とは、市民・市外「利用者の居場所作り」といった意味合いで捉えている。また「回遊性」についてであるが、相鉄線地下化後の大和駅周辺の基本的な街の考え方が、「プロムナードを中心として回遊性の高い街づくり」としている。人々が楽しく回って楽しめるような街づくりをイメージした。「プロムナードを中心に楽しく歩ける街づくり」と標榜しているので、そのような意味で人々の行き来を「回遊性」と捉えている。

- 「回遊性」は人の往来があるという意味で解釈ができるが、「交流」については、わかりづらい。居場所作りだけに終わっていて、イベントに興味がある人は来るが、交流に至っているかどうかは、計れておらず、それ以上の交流という効果まで波及させるためには、もう少し仕掛けづくりが必要である。

【「事後評価原案の公表の妥当性」について】

- 意見なしであったのに、「適切に設定・実施することができました」という言い切りでよいのか。意見なしで、設定の仕方に問題があったのに、よいのか。

【「その他」について】

- 「大きく寄与できました」という言い切りでよいのか。まだ、シリウス開館後5、6か月の段階での評価であると思うが、例えば商店街の売り上げが上がった、新しい商店が続々とできてきた等の考察は全くない中で、これでは言い過ぎではないか。

ならば、「大きく寄与できるきっかけを作りました」、「促進され始めました」というような表現がよいのではないか。シリウスは素晴らしいと思う。それは全く否定するものではない。そのような「布石」を打ったというような正確な表現が良いと思う。その後のどういう図を作るかということは全く示されていない。

- 根拠が明確だとよいのでは。

▼市長がいろいろなところで申し上げているが、シリウスが当初目標としていた以上の来館者数があった。具体的には開館から1年で300万人が来館した。これは、(休館日の12月31日と1月1日を除いた)暦年で見ても300万人を超えたという話も聞いている。また、直接商店街の方に直接アンケートをとったわけではないが、産業の部局の者から人通りが増えたという声も聞いているということで、今回はそれなりの評価をさせていただいた。ただおっしゃる通り、作ることが最終目的ではない。これから、シリウスをランドマークに、大和駅周辺の活性化につなげていきたいと考えている。

【「今後のまちづくり方策の作成」について】

- 目的指標として図書の貸出冊数を採用し、目標に達しなかったとされている。シリウスは非常に居心地の良い環境で、その場でじっくり本を読んでみようという気持ちになる場所であると思う。以前の図書館と比較すると、そういった面がものすごく良くなっている。シリウスができて読書環境の満足度が上がり、本を借りずにその場で読む人が増えたのではないか。貸出冊数にこだわるだけでなく、読書環境の満足度のようなデータがとれるのであれば、読書に触れる量は増えているので、それらの指標の合わせ技で、そのような状況を反映できるような指標が望ましいのではないか。

- 図書館の登録者数はどのくらいか。

▼《旧図書館、閉館時》H28.8末：34,031人、《新図書館》H29.12末：56,392人である。新規は、22,000

人ほど増えている。

○貸出冊数は、人口当たりでよいか。

▼そうである。

○そうであれば、登録した人当たりの貸出冊数は落ちておらず逆に上がっているということではないか。

登録率が増えれば人口一人あたりの貸出冊数は下がると考えられるのではないか。そうだとすれば、この指標はあまり有効ではないかもしれない。年間の登録率がどれくらい増えたか、利用者の貸出冊数が年間どれくらいだったのかということの方が、数字としては適切だと思う。

○貸出冊数の伸び悩みは、図書の貸出冊数の上限を設けたことと関係があるのではないか。（以前は上限がなかったが、新図書館になって上限 10 冊となった。）

○それはあまり関係ないのではないか。以前は上限 15 冊で、現在は 10 冊までとなったが、上限を設けた経緯は、子どもの絵本を含めより多くの人が借りられるようにとの意図からであるらしい。それほど影響はないと思われる。

【目標指標について】

○ここにはない指標として、シリウスは、複合施設になっているとか、カフェを入れているというような空間の使い方がユニークであるということや、またメディアにも多く取り上げられており、市民の誇りとなっているといえる。ただ、回遊性については強い課題にするべきであり、もっとにじみ出てもよいものだと思う。まだ何もしていないので、回遊性が高まる仕掛けをもう少し考えた方がよいのではないか。また、交流についても、大きな箱ができてそこでイベントをやってそこに外から人が来たからといって、交流が高まったとは言えない。もっと交流を高める手段があるのではないか。

○印象であるが、利用者を見ると、家族連れが多い。ベビーカーを押してくる母親の姿も多く見られるので、そのような側面も指標に取り入れた方がよいのではないか。

【「成果の評価」について】

○目標指標にこの 4 つを選んだことがもったいない。さきほどの図書貸出登録者数であれば、明らかにクリアしているのがわかる。どこのメディアに掲載されたのかという、メディアの掲載情報を指標として採用するべきである。ふらっと大和については、私の提言が採用されていて、利用者が増加しているとのことで、うれしい。

○プロムナードの指標として、プロムナードから店舗に入る人の数は計測できるはずなので、利用者の属性などはとれているのか。

▼そこまではとれていない。

○こういった団体がこういった活動をしているのかは、統計がとりにくいと思う。利用状況を可視化するツールを今後作っていった方がよいのではないか。

○今の意見は非常に重要である。図書館の利用履歴を確認すれば、何歳の人が何時ごろ利用したのかというビッグデータが図書カード等でとれているはずである。個人情報の問題はあるが、今後の有効活用のために必要な情報として、周辺の事業者とこの情報を提供して、適切な商業行動をしてほしい。

（例えば、朝はお母さん連れが多いから、近隣のパン屋さん等がもそのような客層を狙ったランチサービスを展開する等、シリウスに行ったら周辺の街全体がどこに行っても居心地が良いと感じられるようなサービスを受けられる街という印象につながるよう、街全体でのサービス提供を考えるべきである。そのための財産としてデータの情報提供をするべきである。）

○シリウスに関するメッセージの発信の仕方を工夫した方が良い。例えば、東名や市役所にある図書館の横断幕であるが、情報の出し方は重要であり、ブランディングということといえるかもしれないが、言葉遣いは大切で、あのような表現であると、穴場を好む人は行かないと思う。メッセージを出すことは大事だと思うが。

○大和駅からシリウスにかけてを見ると、プロムナード横の駐車場や駐輪場等、もっと有効に使えるような土地がある。

(2) 平成29年度 第20回 大和市街づくり賞 選考

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼(選考方法について、それに関連する啓発事業について事務局から説明を行った。)

▼街づくり賞の選考方法について、前回の推進会議では3案が提案された。①各委員が1～5点の持ち点を持ち、良いと思った5事例について1位5点～5位1点の点数で評価する「持ち点式」、②各委員が同数の票を持ち、良いと思った5事例についてそれぞれ自由な配分で投票する「配分式」、③各委員が前事例について5段階で評価する「5段階式」である。前回会議での皆様のご意見と応募事例の内容等を踏まえ、今回の選考では、会長と事務局で相談し5段階式を採用することが決定された。

▼具体的な作業の流れは次のとおりである。(1)まず、事務局より、写真や動画等の資料を使用して候補事例の紹介を行う。(2)その後、現地視察を行う。(1)および(2)の際には、配布資料のうち「各活動・事例 メモシート」に気づいたことをメモする等、必要に応じて活用していただき、「各活動・事例 評価シート」に各事例の5段階評価および講評を記入していただく。(3)現地視察終了後、「各活動・事例 メモシート」および「各活動・事例 評価シート」を回収し、事務局が全事例についての評価を「選考集計シート」に入力する。(4)全事例の評価を踏まえ、推進会議全体で議論を行い、(5)最終的に上位5事例程度を受賞事例として選出する。

○事務局による(1)候補事例の説明の際に、多少議論を行えたらと思う。

▼(候補事例の紹介を行った。)

【紹介時に寄せられた主な質問】

- ・活動期間はどれくらいか。最近のものなのか。
- ・活動の主体は誰か。(個人、自治会、市等)
- ・公園の名称が決まった経緯を知りたい。
- ・同様の活動は他でも行われているのか。アダプト・プログラム(大和市道路等環境美化プログラム)に該当する活動かどうか。

○これらの事例のうち、受賞事例の中で、例えば「大賞」のような順位付けを行うのか。

▼そうではない。

▼基本的には、委員の皆様による5段階評価をもとに、それらを集計して、上位のものから5つ程度が受賞となる。

▼以上を踏まえ、現地視察を行っていただく。本日視察しても活動を行っていない事例等もあることや、会議時間が限られていること等から、本日の視察は全事例について下車して行うのではなく、車窓からの視察や、特に現地での確認を行わない事例もある点、ご了承ください。

○▼(現地視察、集計作業を行い、集計結果をもとに選考会議を行った。お寄せいただいたご意見

は次の通りである。)

- ・ 建築を評価するのか、仕組みを評価するのが曖昧である。
- ・ 文化交流的活動だけではなく、美化活動や建築物等、「街づくり」として、どこかでハードとしての側面に触れている必要があるのではないか。
- ・ 地主と活動者、所有者と活動者といったように、別個の主体が互いに理解を示して一つの活動や事例として表れている点が良い。さらに言えば、個人だけではなく複数の人が連なっている活動であれば、なお良い。
- ・ 表彰のタイミングとして、継続した活動であるかどうかの指標として、最近の活動であるかという点を考慮する必要があるのではないか。
- ・ 一般的な活用方法ではない、新たな可能性を示している点が良い。
- ・ 隣人関係を誘発しているものであるかどうかを考慮するべきである。
- ・ 性格が似ている活動や事例に偏ることなく選出するべきである。

○評価の視点としては、これまで議論してきた「今後の大和市の街づくりについて」の視点や、街づくりサポーターから寄せられた意見を踏まえてということになると思う。ここで、簡単にそれらの視点を振り返る。

(会長より、資料をもとに各視点の確認を行う。今回の選考に関係すると考えられるものは次の通り。)

【今後の大和市の街づくりについて】

- ◎ねらい：現在、大和市の街づくりが抱える問題点について、推進会議全体で視点を共有し、2年間の委員任期中に各議題について共通の視点からの検討を行うことで、今後の本市の街づくり行政に役立てる。
- ◎視点：①本市のアイデンティティの特定は困難である。
②歴史的アイデンティティに根差した、街づくりが有効である。
(例) GHQ のディペンデントハウスの活用事例
- ③「成熟都市」としての今後の方向性（現状では既に開発余地がほぼない本市の土地利用状況を踏まえ、新規開発よりも既存市街地を今後どう再生していくか。市民による様々な経済活動に注目した「街づくり」の検討。） (例) 空き家のリノベーション
- ④「年齢的南北格差」に配慮したソフトの「まちづくり」の必要性（本市は今後、市内北部は若年層の人口増加が見込まれるのに対し、南部は高齢者人口の増加が見込まれ、このアンバランスな状態は今後一層拡大していくと考えられる。）
- ⑤市民が集い交流する拠点から、街づくりにつながるような自発的な活動を支援していくことが必要である。

(例) 旧図書館を活用した市民交流センター内の市民活動ブース「部室」

【街づくりサポーターからの意見】

- ①独創性のある民間による取り組みで、取り組みの一段の努力がうかがえるもの。
(例) 隣人関係、利便性等
- ②良好な景観とは、過ごしやすい・暮らしやすい・歩いていて気持ち良い街並みである。
(例) 自然、街の整備等

◎選考作業を経て、次の4事例が受賞事例として選出された。

- ・福田 山下邸
- ・「つきみ野十景」のスケッチ画単彩
- ・もみの木デイサービス・もみの木放課後等デイサービス
- ・渋谷二丁目保存樹林への植栽活動

▼本日ご提出いただいたシートの記載内容および議論の内容を踏まえ、事務局が講評案を作成するので、作成後、確認をお願いしたい。

○承知した。

3. 報告

(1)平成29年度 第20回 大和市街づくり賞 表彰式について
質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼(表彰式について、現在の方向性を報告した。)

【表彰式のおおまかな流れ】

日時：平成30年3月21日(水・祝) 10時～12時

会場：大和市文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター 601講習室

内容：(1)「街づくり賞」 表彰状・記念品授与式

(2)「街づくり学校専修コース」 ワークショップの発表

(3)「街づくりサポーター」 ワークショップの発表

○街づくり賞の表彰式の中で、受賞者にコメントをいただく時間があつた方がよい。

○事例紹介でコメントをいただいた方がわかりやすいと思う。

▼承知した。受賞者のコメントは、受賞事例紹介の部分で行うこととする。

○例えば、街づくり賞受賞者が、街づくり学校受講者や街づくりサポーターの方と議論する時間を設けるなど、全体として大和の街づくりについて生産性のある議論ができると良いと思う。

▼いただいたご意見を踏まえ、事務局で検討する。

○街づくり学校受講者や街づくりサポーターの方から、表彰結果について何か意見を言う機会はあるのか。

○時間管理上、難しいのではないか。

▼市長の当日のスケジュールの関係もある。受賞者の方には、写真撮影後も会場に残ってもらう予定である。

○予定された内容は、以上で全て終了した。

4. その他

▼年度当初にお配りした年次報告書について、修正事項があつたため、お手数ですが差し換えをお願いしたい。

○今年度の会議は今回で最後である。

▼今年度の街づくり推進会議は今回で最後となる。来年度もよろしく願いいたします。

以上